

未来の行田創生に向けてスタート

市では、これまで国や他の市町村に先駆けて、「育む」・「住む」・「働く」の定住促進と「魅力アップ」・「情報発信」の交流促進の分野において、総合的な人口減少対策に取り組んできました。

さらに、今年を「行田創生元年」と位置付け、行田創生に向けた推進体制の構築や国の交付金を活用した取り組みを先行的に開始しています。

人口減少対策の取り組みをスタート

- 若手職員による政策研究、成果発表を実施

平成23年度

- 「行田市版骨太の方針」を策定し、人口減少対策に予算を優先配分

本市独自の総合的な人口減少対策をスタート

- 「住みいる行田プロジェクト」を発足し、官民協働で子育て世帯の住宅取得を支援
- 「定住促進基本計画」を策定(定住促進：44事業、交流促進：17事業)
- 県内最高水準の奨励金で企業誘致を強化
- 屋外公園併設の子育て支援拠点施設「きっずプラザあおい」を整備

平成24年度

- 人口減少対策の柱となる条例を制定(定住促進基本条例、子育て世帯定住促進奨励金交付条例、企業誘致条例)

平成25年度

国の地方創生と連動した新たな取り組みをスタート

- 「行田市まち・ひと・しごと創生本部」や「行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議」を設置し、行田創生に向けた検討をスタート
- 行田創生事業を先行実施(平成26年度補正予算)

平成26年度

Interview 1 -インタビュー- これからの行田に期待することは？

個人商店の魅力を発信していくことが行田創生の鍵

私は、行田の中心市街地である新町で飲食店を運営していますが、シャッターが閉まっている近年の商店街を見ると、寂しさを感じます。やはり、自分たちが住むまちは、元気であってほしいです。個人商店を営む立場からすると、地元の商店を使ってもらうことが、まちの活性化へつながるのではないのでしょうか。そのためには、業種の垣根を越えて、個人商店の魅力を発信していく必要があります。私は若手の事業

行田創生には、地域ぐるみの子育て仲間が必要

私は3人の子どもの親ですが、正直子育ては大変です。「自分の子は成長が遅いのではないか」、「私の育て方ってこれでいいのかな」と悩むことも。そんなとき、救いとなったのが「仲間」でした。子育てに関するちょっとしたことでも、お互いに話すことで気持ちが楽になります。現在は、ママ友といった個人的なつながりでコミュニティを形成していますが、こういったつながりが地域ぐるみで持てれば、もっと安心し

人口減少や少子高齢化は、今後加速度的に進行することが見込まれています。人口減少による経済力の低下や少子高齢化による働き手の減少は、社会構造に大きな影響を与えるばかりではなく、国全体の活力低下を招くこととなります。人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある元気な行田を実現するためには、市民の皆さんをはじめ、さまざまな分野の方が連携・協力してオール行田の体制で取り組む必要があります。ここでは、未来の行田創生に向けた取り組み状況について紹介します。

男子3人のママ 育児サークル☆ほっぺ代表



春田有香さん(若小玉)

て子どもを産み、育てていくという意識が高まっていくのではないのでしょうか。また、私たちのような子育て世代の女性が行田で活躍できる場があれば、市外への転出を食い止めることができると思います。

92年続く老舗そば屋の4代目店主



田代充弘さん(行田)

主と共に、スタンプラリーや行田産の野菜を使った商品開発を行っています。小さなことでも継続していくことで、まちが発展していくと思います。行政も、頑張っている地元の商店をサポートしていただけたらうれしいです。

[特集] 行田創生元年

